大麻第三住区自治連合会　　平成 30 年 9 月(第 2 号)

回　覧

三自連だより

大麻西町自治会
大麻扇町自治会
大麻沢町 16 丁目
サンゴールド自治会
大麻沢町第二自治会
大麻教沢自治会

子供みこし祭り中止の経緯

胆振東部地震を機に防災意識の向上を

大麻第三住区自治連合会
会長　石田　喜計

9 月 4 日の台風 21 号によってあちらこちらで大木がなぎ倒され、6 日には胆振東部地震が起こり北海道に甚大な被害が発生しました。被災された多くの皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに 41 名の犠牲者とご家族には心よりお悔み申し上げます。

「災害は忘れたころにやってくる」まさにその通りです。道民一同全くの油断でした。全道で停電が発生し、一部地域では断水も継続しています。ライフライン、中でも停電は道民には相当のダメージを与えた様に思われます。この度の災害によって我が家では何が足りなかったのか、何が必要だったのか、今一度再確認が必要なのではないでしょうか。「備えあれば憂いなし」であります。

さてこのような状況の中で、三自連第 47 回目の子供みこし祭りを果たして実施して良いのかどうか苦悩の一時期もありました。幸運にも私たちの第三住区においては、停電もまもなく解消され、報道で聞くような被害の報告もないため、当初、実施できるのではと思っておりましたが、続々と入る道内各地の被災報道が続き、近隣の各自治連との話し合いがある中、関連上部組織からの催事の自粛要請があり、三自連としても誠に残念ですが第 47 回目の子供みこし祭りは中止することといたしました。どうぞご理解ください。

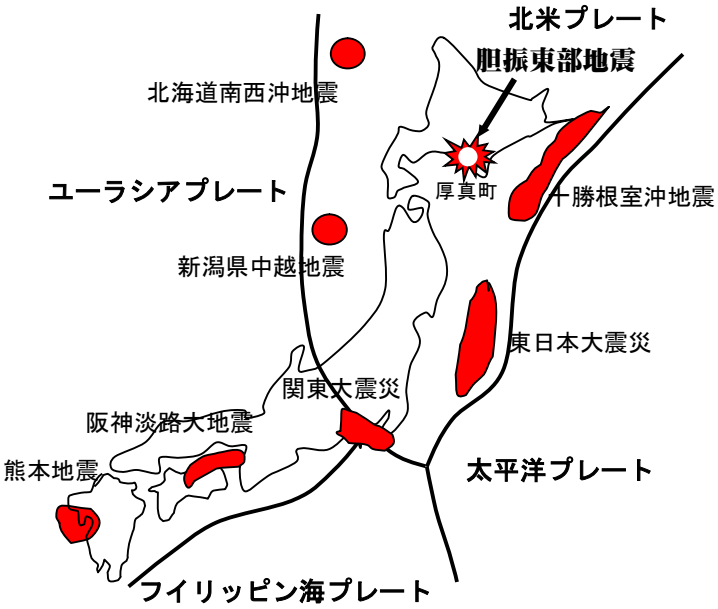
来年はこの悔しさを跳ね返すべく楽しく盛大な子供みこし祭りにしたいと思っておりますので、また自治会の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。なお江別市消防署予防課では以前より防災・減災の研修を予定していました(10 月 20 日(土)西地区センター)。後日回覧いたしますので皆様とともにさらに防災減災意識を高めましょう。大勢の皆様の参加をお願いいたします。

防災に向けた歓心を！

このたびの胆振東部地震は、専門家をもはじめとしておよそ誰もが予期しなかったようです。しかも海域ではなく北海道の内陸の地下 40km で起きたと聞いたときは心底驚きました。北海道は前々日の台風で、あちらこちらの街路樹の倒木が散見されるみすぼらしい風景の中で突如としてこの地震が発生しました。地震発生時刻が 3 時過ぎと云う深夜帯の時刻で、その直後からおよそ誰もがはじめての北海道全域停電ということを経験するに至ったのでした。

日本列島と地震

日本列島について太平洋側だけを南北に眺めると、発生した年の順番は別として、南から北に向けて順に、まだ記憶に新しい熊本地震(2016)、そろそろ記憶から薄れつつあるものの阪神淡路大震災(1995)、知らない人が多くなってきた関東大震災(1923)、まだ事故処理やその復旧が終わっていない東日本大震災(2011)、そして、



最北は今回の胆振東部地震(2018)…と日本列島を南北に亘って、関東大震災から約 100 年の間にほぼ等間隔で連なるような地震の痕跡を残しています。

さらにそのほか日本海側にも新潟県中越地震(2004)や北海道南西沖地震(1993)など、数回の巨大地震を経験していることから、北海道はまさに巨大震源の巣で包まれるような様相を呈しています。

北海道の地震といえばその多発域として、これまで釧路沖とか浦河沖とか、とにかく太平洋沿岸からかなり離れた海域における地震がほとんどなので、よもや、それがいきなり海に近いとは言え内陸の厚真町直下にて凶暴化するとは本当に驚愕の限りです。

知っている人も多いと思いますが、関東・東北から北海道にかけての陸地は、北米プレートとよばれる「大陸盤」

の上にちょこんと鎮座している形を呈しており、これまでの北海道の地震の大半は、その北米プレートの東側周辺海域(少しややこしく言えば太平洋プレートとの境界)付近で多発しており、津波対策なども太平洋側を特に意識して強化対策されてきた感が強いものです。しかし今回の胆振東部地震はそれをまさに嘲るようにその内側に入り込んで北海道を真下から突き上げてきたものです。

震度7と言えば地域や地盤の構成・強弱により体感差はあるものの、とにかく気象庁が定義する最大規模です。こんな地震があろうことか身近に発生するとは…もうお手上げ…といったところ。ちなみに近年の情報では世界で発生する地震の 20%は日本で起きているということもあらためて認識が必要でしょう。

胆振東部地震が発生した直後、単三電池使用の小型ラジオをつけっぱなしで真っ暗の中で報道を聞いていたところ、北海道全域で約 230 万世帯におよぶ停電ということが明け方になってようやく分かってきました。

似たような大停電が…

写真:AP 通信

そのとき急に思い出したのは1965のニューヨーク大停電(ﾌﾞﾗｯｸｱｳﾄ)。あの停電の原因は地震ではなくて、厳しい寒波により大量の電力需要が発生し、そのとき一つの基幹発電所のシステム不備がもとでその発電所が停止し、電力網に接続している他の基幹発電所が次々と連鎖停止したというものです。つまり発電量に対して電力需要が極端に過剰になると発電機がオーバーロードとなり、ひとつの発電所の停止を機に、網目のようにつながっている他の多くの発電所も需要量に対応できず次々と停止が連鎖する…ということが起こったのでした。

一方、北海道では泊原子力発電所が停止している現在、北海道の総発電量の約 60%を発電する 3 基の苫東厚真火力発電所ですが、これが地震の直撃でまずその2基が停止、するとその不足分を他の発電所では対応できずオーバーロードとなり火力発電所や水力発電所へと停止が波及し約 17 分後全道停電に至ったとのこと。

規模も原因も違いはありますが、この全道停電に至った流れはまさに 1965 ニューヨーク大停電と同じ構図。

道南厚真の発電所が停まっただけでなぜ北海道最北の地まで停電？…といった声もありますがかかる事情からです。道外からの給電がどうして間に合わなかったのかと言う疑問は残るものの、普段私達は送電網のその巧妙さの恩恵で何不自由なく電気生活をしていますが、巧妙さ故に生じたこの現象をして、私たちに初めての全道一斉停電と云う経験をもたらしめたものでした。

そして大麻では…

大麻では今まで高々4～5 弱震度を話の種にしてきたものですが、今回の揺れは震源地から 70km 隔ててはいるものの極めて強烈な心証を残した地震でした。

ただ、大麻地区に限れば幸いなことに自宅の被害などはまったく耳にせず、水道も停まらず、停電の洗礼は受けたものの、早い地区では 6 時間程度、長くても 1 日程度で復旧しはじめ、冷凍庫の食材も無駄にはならず、気を揉んでいた主婦さんは大いに安堵したことだったと思います。これは北海道の電力業界の尽力も勿論ですが、わが第三住区一帯の地盤の強靭さに大いに幸運を感じて良い点でしょう。

苦渋の末に
第 47 回子供みこし祭りは中止に！

大麻第三住区自治連合会で今年度予定していた「子供みこし祭り」は、胆振東部地震の災害発生直後でもあり、被災報道の最中と重なり、また震源地である厚真地区の犠牲者の中には大麻住民の近親者や知人・友人なども居る場合もあり、昼夜をかけての捜索活動とも重なっていることに配慮せざるを得ません。

更に加えて、近くでは札幌清田地区の液状化現象の惨状には心痛む報道も多くあり、ここに、関連上位団体などから、被災地の惨状に配慮し、各自治連に対して「子供みこし祭り」などの神事の一時中止の要請があったものです。

大麻第三住区自治連合会としてもこれまで3か月間に及ぶ準備や出費はあるものの被災地の惨状と比すべくもなく、やむなくここに「第 47 回子供みこし祭り」をその前々日 9/7 午後の時点において中止を決定し、8 日(土)、9 日(日)の 2 日間にわたり懸命に広報車により皆様にその旨お知らせしたものです。広報に拘わっていただいた実行委員会の方に感謝申し上げます。

各ご家庭におきましては心待ちにしていた子供達にかかる事情を是非説明してあげてください。

大麻第三住区自治連合会としてもはじめての子供みこし祭り緊急中止なので、前例がなく、配慮たらずの点もあろうかとは思いますがよろしくご理解をお願い申し上げる次第でございます。

更なる災害対策・準備に期待

今まで防災訓練といえば、その揺れの大きさや、家財の転倒、避難方法等々ことばかりをテーマにしてきた感がありますが、今回の胆振東部地震による長時間停電という現実に遭遇し、真夜中の強い揺れと明かりのない真っ暗闇の空間に不安さや不便さに戸惑いを覚えた方々も多いことと思われ、あらためて被災時の”真夜中対策”について再度検討の必要にせまられた…と云う声も多く聞かれます。

この機に懐中電灯や電池駆動のラジオの常備場所などについて家族間での周知徹底など、身近な災害対策・準備について再考されることを期待するところです。

なお、揺れ動く余震で真っ暗闇の最中、懐中電灯ひとつを持って隣の一人住まい宅に行き「大丈夫ですか？」と声をかけていた住民の一人を目にし心温まるものを感じた地震でもありました。

事務局記　2018/9/20